

自己評価報告書

平成23年3月30日現在

機関番号：12102
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2008～2011
課題番号：20320020
研究課題名(和文) 文化遺産としての大衆的イメージ——近代日本における視覚文化の美学
美術史学的研究
研究課題名(英文) Popular Imagery as Cultural Heritage: Aesthetical and Art Historical
Studies of Visual Culture in Modern Japan
研究代表者
金田千秋(KANEDA CHIAKI)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：80224624

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：大衆、イメージ、視覚表象、文化遺産、コレクション、保存、修復、小芸術

1. 研究計画の概要

本研究は、大衆的な視覚表象(イメージ)を文化遺産の観点から美学・美術史学的に考察することを目的とする。具体的には、まず、日本において「大衆」がはじめて成立した大正期に流通していた紙媒体の視覚文化に注目し、可能な限り詳細かつ広範囲な資料調査に基づいて、その全体像(注文・生産・流通・消費過程を含む)を明らかにすることを目指す。そのうえで、当該期の視覚文化を構成する大衆的イメージが「文化遺産」として継承されるとするならば、いったいどのような範囲のモノが、どのような形態で、いかなる理由によって、何を記念するものとして選ばれるべきかについて考察することを課題とする。

そのために、研究代表者・研究分担者・連携研究者、ならびに研究協力者は、それぞれの研究分担に応じて、個別的に、美学・美術史学的な問題を提起し、解決することを試みるとともに、次の2つの種類の共同プロジェクトを行うものとする。

(1)第1に、国内の研究者が個別的な研究成果を、主として「大正イマジュリイ学会」のシンポジウムにおいて、相互に確認し、総合化すること。

(2)第2に、国内と海外の研究者が、「文化遺産としての大衆的イメージ」公開講演会を国際シンポジウムとして開催し、日本の内と外から、大衆的イメージの文化遺産としての価値を議論することである。

2. 研究の進捗状況

研究代表者・研究分担者・連携研究者、ならびに研究協力者は、それぞれの研究分担領域(美学/美術史学)に応じて、個別的に、下記の業績に代表される研究成果をあげる

とともに、次の2つのことを行った。

(1)3つの国内シンポジウムを、「大正イマジュリイ学会」全国大会の一環として、開催した。すなわち「〈イマジュリイ〉道楽——収集・交換・生産をめぐる」(平成20年度)、「大正の〈小美術品店〉」(平成21年度)、「大正イマジュリイ辞典について」(平成22年度)である。

(2)3つの国際シンポジウムを、「文化遺産としての大衆的イメージ」公開講演会として、開催した。すなわち「視覚文化としての〈文化住宅〉」(平成20年度)、「コレクションの欲望——松浦武四郎とフレデリック・スタール」(平成21年度)、「表象・流通・蒐集——近代日本の視覚/物質文化を再考する」(平成22年度)である。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)当初予定した美学/美術史学の領域における個別研究と、2つの総合研究(国内シンポジウムと国際シンポジウム)を、予定通り行って有意義な成果をあげることができたばかりか、『大正イマジュリイ辞典』編纂の方向へ進みつつあるから。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの3年間にわたる個別的・総合的な研究業績を、広く社会に還元するために「研究報告書」を紙ベースで出版する。また、大正イマジュリイ学会を中心に、研究を拡張・深化させて、『大正イマジュリイ辞典』を編纂して、さらに広く、研究成果を開かれたものにする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

- ①加藤哲弘「方法としての受容美学」『美術フォーラム 21』第 23 号、2011 年、pp. 26-30、査読あり
- ②岸文和「浮世絵に見る西洋受容——北斎画「富嶽三十六景」の遠近法を中心に」深圳画院編『第 5 回深圳水墨論壇論文集』2010 年、pp. 191-228、査読なし
- ③及川智早「絵葉書の中に棲息する人魚」『彷徨月刊』2010 年 3 月号、彷徨舎、pp. 16-17、査読なし
- ④Kan SHIMAMOTO, “The Art Catalogue and Its Ecriture: From Representation of Space to Space of Representation”, JTLA, vol. 33, pp. 1-14, 2008 年、査読あり
- ⑤佐藤守弘「浪華写真のヒストリオグラフィ——『月の鏡』と「写壇今昔物語」」『美術フォーラム 21』第 17 号、醍醐書房、2008 年、pp. 103-108 査読あり

[学会発表] (計 7 件)

- ①石田あゆ「戦争は女性美を抑制するか——1931-1945 日本の化粧品会社の販促活動」シンポジウム “Inventing Commercial Culture in East Asia: A historical study on Advertising”, 2010 年 12 月 11・12 日、於香港大学
- ②佐藤守弘「風景とノスタルジア——20 世紀初頭の日本における絵画主義写真」Colloque international: L’essor de la photographie au Japon, 1900-1945、2009 年 12 月 4 日、於パリ日本文化会館
- ③金田千秋「文化遺産と価値の問題」、社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務、2009 年 9 月 21 日、於東京国際フォーラム
- ④Tetsuhiro KATO “Aby Warburg in Japan: An Extrapolation” Transcultural Visuality Workshop Series, No. 1, 2009 年 3 月 11 日、於ハイデルベルク大学
- ⑤金田千秋「20 世紀の保存修復思想の葛藤」資料「文化財への二つの視線——〈時間の風景画〉と〈時間の歴史画〉」、社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務、2008 年 11 月 9 日、於東京国際フォーラム

[図書] (計 9 件)

- ①佐藤守弘『トポグラフィの日本近代——江戸泥絵・横浜写真・芸術写真』青弓社、2011 年、214 頁
- ②岸文和「趣味と蒐集の地勢学——大正 14 年の《趣味国名所図会》を読む」近畿大学日本文化研究所編『日本文化の攻と守』風媒社、

2011 年、pp. 44-72

- ③熊田司・橋爪節也編『森琴石作品集』東方出版、2010 年、252 頁
- ④中谷伸生『大坂画壇はなぜ忘れられたのか——岡倉天心から東アジア美術史の構想へ』醍醐書房、2010 年、616 頁
- ⑤山田俊幸他編『大正イマジユリィの世界——デザインとイラストレーションのモダンズ』ピエ・ブックス、2010 年、192 頁